THE ROTARY CLUB OF NAGOYA OSU
名古屋大須ロータリークラブ

Be a gift to the world
2015-16年度 R.I.会長
K.R. ラビンドラン

WEEKLY REPORT No.1311

＜本年度会長方針＞
もっと知ってもらおう　我々の活動を

承　認　1985年2月12日　例会日　木曜日 12：30　例会場　名古屋東急ホテル
会　長　田崎　雅三　事務局　名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹　事　丹下　富博　電　話　(052)251-0181　FAX　(052)251-0337　〒460-0008
URL　http://www.nagoya-osu.org　E-mail　office@nagoya-osu.org

世界へのプレゼントになろう

第1537回例会

経済と地域社会の発展月間
介護施設慰問例会
平成27年9月27日（日）
於 まんだら・慶葉閣

出席計算数　会員　57名
39名中21名出席
出席率 53・85％
前々回出席率 92・00％

例会プログラム

★宇野職業奉仕委員長
・第3回ワールドフード+ふれ愛フェスタについて
★老人介護施設慰問

ゲスト

オルガン演奏　鈴木　郁子さん
ギター弾き語り　稲場　禮子さん
名古屋ーAC会長　村瀬　美有さん
名古屋ーAC副会長　鈴木　望さん
名古屋ーAC　石川　佑香さん
名古屋ーAC　松永　悠太くん
14-15年度派遣青少年交換学生　林　拓弥
受入青少年交換学生　エドゥアルド・ベンコブスキー
16-17年度派遣青少年交換学生　候補生　足立芙未香

ニコボックス

慰問例会ありがとうございます。お願いします。　春日井和良
社会奉仕委員会の皆さん、ご苦労様です。田崎　雅三・丹下　富博
前田　隆久・岡村　隆徳
酒井　修・林　順治
老人介護施設慰問宜しくお願いします。　加藤巳千彦・小野　定男
丹下さん、林さん、ありがとうございました。　大上　晃延
田崎さん、明日からお世話になります。WFFチケットみなさまありがとうございました。　宇野　史仁

会長挨拶　会長　田崎　雅三

皆さん、今日は特別養護老人ホーム「庄内の里」への慰問です。日曜日ですが、沢山ご参加いただきありがとうございます。また、社会奉仕委員会の皆さん、ご苦労様です。

さて、本日のバック演奏に使う「ハモンドオルガン」について、お話しさせていただきます。ハモンドオルガンは1934年にアメリカで開発された鍵盤楽器です。当初の目標が、安価にパイプオルガンの音が欲しいということであったため、パイプオルガンを購入できない中小の教会でパイプオルガンの代わりに使われていましたが、1950年代からは、ジャズを初めとするポピュラーミュージックでも盛んに使われるようになりました。1960年代に入るとロックでも使われ始め、非常にポピュラーな楽器となりました。日本では石原裕次郎さんなどが出演していた日本テレビの「太陽にほえろ」で、テーマ音楽や劇中の音楽でも使用されています。

オルガン奏者であったドン・レスリーという人物が1940年ドップラー効果を利用して、トレモロ、ビブラートなどの音色の効果を出すために作ったアンプ内蔵のスピーカーで、瞬く間にハモンドオルガンとレスリー・スピーカーは殆どの場合セットで用いられる事になりました。

特別養護老人ホーム　慰問

社会奉仕委員長　春日井和良

平成27年9月27日(日)、午後2時から3時まで、西区中小田井にある「特別養護老人ホーム 庄内の里」へ音楽演奏による慰問を行いました。会員及びクラブ関係者25名、名古屋インターアクトクラブの高校生5名、ブラジルからの受入青少年交換学生1名の総勢33名で賑やかに訪問しました。

会員の小澤幸男さん所有のハモンドオルガンを持ち込み、食堂にあるステージへセットし、懐かしいオルガンの音色をバックに、こども合唱団「ぽこ♪あ♪ぽこ」による童謡や唱歌を始め当クラブの合唱同好会「オオスシンガーズ」のコーラス、また、ボランティアの稲場禮子さんによる生ギター「涙そうそう」の弾き語りもありと、施設のお年寄り達は大変喜ばれ、感動で涙ぐむ方もみえ、1時間があっと言う間に過ぎました。

最後は元ナゴヤ球場のオルガン奏者でもあった鈴木郁子さんによる「燃えよドラゴンズ」の演奏を全員の手拍子で大変盛り上って終了、締めくくる事ができました。

ご協力を頂いた演者の皆さん、またご参加くださった会員の皆さん、ありがとうございました。

その他・お知らせ

派遣青少年交換学生　報告
「マンスリーレポート」

青少年交換学生　渡辺　玄

こんにちは。ブラジルに来て二ヶ月が経とうとしています。ようやくポルトガル語が少しわかるようになり、少しずつですが、コミュニケーションがとれるようになってきました。しかし、相変わらず朝と昼の気温差に慣れません・・・。朝は19度くらいなのですが、昼は34度くらいまで気温が上がります。一か月前のように、大きく体調を崩すようなことはありませんが、まだすこし体調不良が続いています・・・。

今月は、様々な体験をしました。まず初めに、学校の宿題で、僕は第二次世界大戦中の日本について、ポルトガル語でプレゼンをしました。最初にその課題について聞いたとき、第二次世界大戦のことについては概略をもちろん知っていますが、その知識をどう翻訳して話せばいいのか分かりませんでした。考えた結果、かなり省略して、1941年12月8日の真珠湾攻撃から戦争がはじまり、1943年のミッドウェー海戦、そして、広島、長崎の原爆投下、終戦という流れで話すことにしました。

僕はブラジルの皆さんに正しく伝わるかどうか、正直不安でした。僕のポルトガル語のレベルはそんなに高くなく、翻訳したとしても、その内容が伝わるか分からなかったからです。

僕の発表はたどたどしく、間違いだらけのポルトガル語でしたが、それでも先生やクラスメートたちはちゃんと聞いてくれて、最後には拍手してくれました。先生からは、「すばらしい発表をありがとう。」と言われ、「良かった、ちゃんと伝わったんだ。」と感じ、嬉しかったです。

その時に、「日本はこの戦争について、まだ怒っているの?」とか、「アメリカはまだ日本にとって敵国?」という質問が出て、この戦争に対するブラジル側の考え方が少しわかった気がして、とても面白かったです。親善大使としての役割を果たすことができたと感じた、とても良い経験でした。

ちなみに、ブラジルは、大戦中は連合国側で、現在のパートナーはアメリカです。それに関連してなのか、最近、社会の授業で、「日本の文化について、この授業中に何か書いて教えてくれ」と言われて、この間は、日本の天皇のことについて教えてくれと言われました。それに対しては、僕の知っている範囲で答えました。これからも、この調子で、少しずつ日本のことを紹介していきたいです。歴史の授業の中でも、時々、日本に関する事柄が出てきて、ブラジルは日本にとても関心があるのだな、と感じています。

8月28日から30日まで、ロータリーの地区オリエンテーションに参加しました。そのオリエンテーションの中で、他の留学生達のポルトガル語のレベルがすごく高く、自分の一ヶ月の努力は何だったんだと、レベルが低いことへの怒りと、今までの自分が全否定されたような絶望感を感じ、泣いてしまいました。

泣いてしまった時に、どうしたの?と留学生全員に聞かれて、理由を説明したら、全員同じような境遇でした。「玄、僕達が話せているのも本当に少しだけだよ、だから心配しないで」と。その時、一部の留学生が、「話せているように見えても、わからないことの方が多いよ」と言っていたことが印象的でした。僕だけじゃなかったんだな、みんなそうだったんだなと、とても感じた、いい経験でした。

みんなと話しているそのときに、偶然、ホストマザーから今までの自分の活動の写真データが送られてきて、涙が出ました。「ああ、そうか。自分は言語話せないなりに頑張ってきたんだな、他の人を気にしてもしょうがないし、自分は自分のペースで行けばいいんだ」と改めて確認できました。

ロータリーの方にも、どうして泣いているのかをたずねられて、説明をしたら、「君は強いよ。だって、君は今こうして笑っているじゃないか!実は私も、YEPだった。君の気持ちは、痛いほどよくわかる。何かあったら、私は君をサポートするよ」と真顔で言われて、本当に嬉しかったです。

実は、その少し前にホストファミリーに、言語が聞き取れないし、話せないことを泣きながら相談しました。その時、ホストファミリーには、「pouco a pouco(少しずつ、少しずつでいいよ。最初からほかの言語を話せる人なんて、本当にごくわずかだから。玄は玄のペースで行きなさい。」と言われました。僕は、その言葉を信じて、今、少しずつですが、覚えたポルトガル語のフレーズを使って、話をしています。

(続きは次号以降に掲載致します。)

10月15日(木) 例会の案内

例会変更　10月13日(火)
4RC合同例会
於 名古屋観光ホテル

広報委員会　前田　隆久
大澤　伸悟・杉浦　令淑

＊本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。